

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームゆうしゅん
(ユニット名)	2F
所在地 (県・市町村名)	長崎県佐世保市東浜町
記入者名 (管理者)	安永 悦子
記入日	平成20年9月1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域密着型サービス事業所としての理念について、職員全体で繰り返し検討を行ってきた。利用者が、海が見える豊かな自然に囲まれた、心やすらぐ環境のもと、のんびり、穏やかに安心して生活して頂けるよう、ホーム独自の理念を掲げご支援させていただいている。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>わかりやすい位置に理念を掲示し、各職員は日々その理念に基づいた支援を行うよう努力している。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>ご家族、利用者、地域の皆様へもわかりやすく見やすい位置に理念を掲示し、家族会や運営推進会議の折に説明し、理解していただけるよう努めている。</p>	
より			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>積極的な声かけ、挨拶に努めており行事開催時よりも多くの方に参加していただけるよう回覧板等で周知、案内を行なっているが日常的な付き合いとまではいかない為、今後の課題である。</p>	<p>○ 近隣の方に施設見学をしてもらおう等、今後も積極的なアプローチを行いたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の方々と親睦を深める事ができるよう、町内行事へは積極的に参加し意見交換を行っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域の方からの相談に対しては介護職としての知識、経験を生かした助言を行っている。また、各職員も認知症サポーターとしての自覚を持ち研修会への参加で日々、スキルUPに努めている。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>職員全員が外部評価の意義を理解し、各個別に自己評価へ取り組んでいる。また、評価結果に対しては全職員で共有し改善へ向けての会議を実施している。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議の内容は議事録として各職員や利用者、ご家族へも伝達しており改善への取り組みも職員会議で議論し、よりよいホーム作りへ活かしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>必要時は担当窓口へ出向き情報の共有や運営に関するアドバイスをもらっており、自治体協力のもとサービスの質の向上に努めている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>必要としている利用者がある場合は成年後見制度の説明や自治体や民間の機関を紹介している。また、職員も理解を深める為、積極的に勉強会を実施している。</p>	○	<p>新人職員もいる為、制度の再認識の意味も込めてもう一度、学ぶ機会を持ちたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>各職員が利用者個々の人格や尊厳を重んじ虐待、拘束のない介護に取り組んでいる。</p>	○	<p>高齢者介護において重要な項目である為、日常的に研修会等に参加し、各職員が同じ認識で介護にあたるよう取り組みたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は利用者、ご家族含め懇切、丁寧な説明を心掛けている。また、不安や疑問点は納得していただけるまで説明し、同意を得ている。要介護度によって変動する利用料の増額も都度、わかり易く説明している。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付箱を設置し匿名でも投稿できるようにしている。また、常に対話を心掛け遠慮なく意見や不満等を話していただけるよう努めている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ご家族面会時は日常生活面や体調面の報告を行っている。また、積極的にご家族と対話する機会を持ち支援内容についての確認等、活発な意見交換を行っている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付箱を設置し匿名でも投稿できるようにしている。また、利用者、ご家族との対話を心掛けており遠慮なく意見や不満等を話していただけるような雰囲気作りを行っている。要改善点は職員会議で討議し改善に向けた取り組みを行っている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議や勉強会の際、職員それぞれが意見や要望を出し合い、それらの意見を職員全体で討議し、改善に向け努力している。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の活動に見合った勤務体制をとっており、行事等で人員が必要な場合は増員するなどその時々状況に合わせた柔軟な対応を行っている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>現在まで急激な人事異動はなく、必要に応じて最小限の移動を行っている。また、利用者、家族、職員間の信頼関係も厚く顔馴染みの職員によるサービスの提供ができています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>サービスの質向上の為、職員個々の能力に応じた研修会への参加やスーパーバイザーを招いた自主勉強会の開催で職員それぞれが自己研鑽に励んでいる。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>定期的に連絡協議会や研修会に参加し、他施設との情報の共有や意見交換に努めている。</p>	<p>○ 相互訪問で他事業所との交流を深め、参考になる部分は積極的に取り入れ、サービスの質の向上に繋がりたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>全職員や各ユニットで定期的な親睦会を行い、悩み相談やストレス発散の場としている。また職員間の信頼関係も厚く互いが同じ目標に向かい努力している。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員個々の能力に応じた仕事内容の分担ができており、それぞれが向上心と責任を持ち日々の介護支援にあたっている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初回からよりよい関係作りができるよう事前面接で利用者のニーズや心身状況の把握、理解に努め、傾聴の態度で接するよう心掛けている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前面接で悩み事やニーズを共有し、今後の対応や方針を納得いくまで話し合い家族のニーズにも応じたサービスの提供に努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス 利用も含めた対応に努めている	利用者本人、ご家族との十分な話し合いを行った上でニーズに即した 外部サービスを取り入れる等、臨機応変な対応を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用 するために、サービスをいきなり開始するの ではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気 に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工 夫している	先ず利用者本人との交流を多く持ち、信頼作りから開始し心身状況 を見ながら訪問や体験入所等を勧め、納得された上でサービスの利用へ と繋げている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本 人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に人生の先輩であるという敬意を払い共に支え学びあいの精神で全 ての人が幸せに過ごせるよう努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えて いく関係を築いている	日常の些細な変化も見逃さず、ありのままをご家族に伝え職員はご家 族の思いに寄り添いながら情報の共有や支援のあり方、方向性を検討 している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、より良い関係が築いていけるように支援し ている	職員は利用者、ご家族の中立的立場でより円滑な関係を取り持つ事が できるよう両者への働きかけを行っている。	○	利用者、ご家族の関係が途切れる事のないよう外 出、外泊依頼等、積極的な声かけを行いたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないう、支援に努め ている	友人との交流支援や招き入れ等、馴染みの方との関係が途切れる事 のないよう個々に応じた支援を行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合え るように努めている	居間へ出て来られる機会を出来るだけ多くつくり、レクレーション活動 等で同じ行動を共にし、会話の仲介を行う事で利用者間のよりよい信 頼関係づくりを支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	在宅復帰された方や他施設へ移動された方へも定期的な面会を行っている。また、行事の際は招待状を出す等、関係を断ち切らない支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、ご家族へ意向を尋ねるとともに日々の会話や表情からとれるメッセージへも気を配り、その人らしい人生が送れるよう支援している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前の事前訪問である程度の情報収集をし、利用開始後も本人、ご家族からの聞き取りや会話等でこれまで歩んでこられた人生や生活歴の把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の生活状況を時系列に介護記録に記したものを職員間で共有している。また、利用者一人ひとりの生活リズムや心身状態に応じ、個別的服务の提供ができるよう常に現状把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人、ご家族からの情報収集のほかにアセスメントで課題を的確に導き出した上で合同カンファレンスを開催している。また、インフォーマルな支援なども組み入れ本人主体のよりよい介護計画の作成にあたっている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎のモニタリングを実施している。また、状況の変化等あれば定期の見直しに関わらず本人、ご家族との話し合い後、ミニカンファレンスを開催し変更や修正を加え、常に現状に即した介護計画を立案している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	昼夜の生活状況や食事量等、個別に記録しファイリングしている。またケアプランサービス実施表や実施状況をコメント用紙に残し職員間で情報を共有するとともに介護計画の見直しや日々の介護支援の質の向上に繋げている。		
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や外出等は原則、ご家族へお願いしているがその時々々の状況に応じ職員が付き添うなど柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的開催している運営推進会議を通じ相談やアドバイスをいただいている。また、併せてボランティア活動や防犯、消防活動等への協力を依頼している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じ、外部サービスの利用ができるよう他事業所や自治体との連携体制作りにも努めている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を通じ権利擁護や成年後見制度についての必要なアドバイスを受けている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な主治医による訪問診療を受ける体制ができている。また、訪問の際は相談やアドバイスをいただき、ご家族と情報を共有しながら健康管理を行っている。突発的なケースに対しては通院介助や電話相談で対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力機関である病院との連携で認知症についてのアドバイスをいただいている。また、主治医往診の際は利用者も気軽に相談できる関係作りができており、必要な治療が継続して行えている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	定期的な訪問看護で日常の健康状態の把握ができています。また、利用者、職員も顔馴染みである為、気軽に相談でき日々、安心して過ごす事ができています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は本人の不安を少しでも取り除けるよう定期的な面会を行っている。また、入院期間中も病院関係者との情報交換を密に行い、万全の体制で退院できるようアプローチしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者本人、ご家族の意向を確認しながら主治医、職員とともに納得いくまで話し合い、全ての関係者が納得、同意の上で方針を決定している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	常に利用者本人の心身状態の把握に努め、ご家族、主治医、職員が連携をとりながらチームとして支援できるよう努めている。また、急変時に備え終末期についての勉強会を行い、職員一人ひとりが真剣に取り組むべき課題である事を再認識している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	関係者間の情報交換を十分に行い、これまでのライフスタイルが維持でき、移り住む事で生じる新たな問題へも真剣に取り組み、更に良い環境を提案できるような支援を心掛けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、それぞれに応じた支援を行なっている。また、極力、オムツの使用は控え排泄の自立へ向けた支援を行なっている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日、入浴時間の固定はしているが、本人、ご家族から要望があれば、その時々状況に合わせて曜日、時間に関係なく入浴できるような体制をとっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者個々の心身状態に応じ、昼夜を問わずゆっくり寛げる時間をとっている。また、日中は適度なレクリエーション活動で夜間の安眠確保に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	介護計画書へも役割や趣味などを盛り込み、利用者それぞれの経験や得意分野を生かした共同生活が送れるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は利用者、ご家族のニーズに応じ臨機応変に対応している。外出の際はそれぞれ現金を所持し、個々で支払いをして頂くなど希望や能力に応じた支援を行なっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の希望に添った外出支援はできていないが、レクリエーションの一環として、玄関先での外気浴や近隣の散歩に努めている。事前の申し出があれば状況を見て出来るだけ近い日に実現できるよう努力している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者からの意向を伺い、定期的に戸外へ外出できるよう努めている。また、盆、正月は利用者の帰省願望も強いため極力、自宅で過ごして頂けるようご家族への働きかけを行なっている。	○	利用者一人ひとりの意向を確認し故郷訪問等、定期的な外出を実施したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の代筆等を行い、積極的に外部との交流支援を行なっている。また、ご家族が遠方に居られる方には定期的に電話をかけ直接、利用者本人が近況報告できる機会を作っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族や友人が気軽に訪問でき、気兼ねなく過ごして頂けるよう配慮している。また、訪問時は居室へ案内しプライベートの時間を過ごして頂いている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止対象の具体的な行為まで把握している職員は少ないが、身体拘束のないケアを実践している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間を除き玄関ドアは常に開放している。裏ロドア(非常階段)及び危険物(薬品類)収納庫は安全対策上、施錠している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	不快感を与えないようさりげない目配り、気配りで所在確認や心身状態の把握に努めている。また、夜間は定時の巡回で安否確認を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤類は鍵付きの収納庫に保管しているが、状況に応じ、必要時はいつでも使用できるよう配慮している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期的な勉強会で職員それぞれが様々な事故に対する対処法を学んでいる。また、利用者個々のリスクに応じた事故回避策や再発防止策を講じている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急マニュアルはあるが、応急手当等の勉強会は過去に数回行った程度である為、継続した訓練を行わなければならない。	○	新人職員もいる為、今後も利用者の心身状況から起こり得る事態等を想定し繰り返し、継続した勉強会を開催したい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者が消防計画書を作成し定期的に避難訓練を実施している。しかし、地域との連携はまだ不十分な部分もある為、今後の課題である。	○	地域の方々に施設見学をしてもらおう等、更なる働きかけを行いたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者個々の転倒や誤嚥等のリスクマネジメントを行った上で、改善策や対応策を講じている。また、起こり得るリスクに関しては、ご家族へ説明し同意を得た後、介護支援にあたっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック、表情、言動等の状態観察を行い、変化を見逃すことがないように日々の支援にあたっている。また、著変時は速やかに主治医へ報告し相談や助言を受けている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最新、過去の処方箋をファイリングし常に各職員が内容を把握できるようにしている。また飲み忘れや誤薬等がないよう服薬の最終確認や準備段階で二重の確認体制をとっている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	運動の他にこまめな水分補給を行い便秘予防に努めている。また、日常から食事はなるべく繊維質の多い食材を選定し、よりスムーズな排泄ができるよう支援している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、利用者個々の口腔環境や能力に応じ声かけ、見守り、一部介助等の支援で口腔ケアを実施している。また週に一回は義歯の消毒洗浄を行い清潔保持に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮した上で、利用者個々の好みや体調に応じた食事量や食事形態の工夫をしている。また、摂取量のチェックを行い健康管理の判断材料としている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対策マニュアルがあり各職員が熟読し感染症についての理解を深めている。また、利用者、職員同様、手洗いの励行及びインフルエンザ予防接種を受け予防に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	常に新鮮な食材料を使用している。また、調理用具や水周りは衛星管理チェック表に基づき洗浄、消毒で清潔を保持し、食中毒予防に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	海が望める玄関先にベンチと季節の草花を植えたプランターを置いている。また車椅子でも安全に行き来できるスロープが設置してあり利用者はもちろんご家族やご近所の方も気兼ねなく過ごせる憩いの空間となっている。	○	玄関先が砂利になっている為、安全性を考慮し舗装したい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や廊下には季節感や懐かしさをあしらった装飾をしている。また安心、安全に過ごせるよう不要な障害物は取り除く等、居心地の良い空間づくりに努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファやテーブル、椅子が設置してありテレビや読書、会話を楽しんだり利用者一人ひとりが思い思いに過ごせる空間づくりに努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や湯呑み等を持ち込んで頂き、入所後もできる限り自宅に近い環境で居心地よく過ごせるよう配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	全室24時間自動換気に加え、天候が良い日は窓を開け空気の入替えを行っている。また、温度調節に関しては利用者の体感温度に合わせ、こまめに調節している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの身体機能やADL状況を判断した上で、手すりやドア等の環境改良を行っている。利用者全員が安全に過ごし、より自立した生活が送れるよう工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者一人ひとりの能力や心身状態に合わせ個別性を生かした支援を行い、本人らしく自立した生活がスムーズに送れるよう工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	近隣の散歩や玄関先で外気浴を行ったり、ベランダへ出て海や山の景色を楽しむ等、ホームの空間を最大限利用した支援を行なっている。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

海、山に見える自然豊かな場所に位置し『入居者全員が幸せに過ごせますように』との理念のもと利用者、職員が協力しあい和気藹々と生活している。日常生活面では趣味活動や学習療法など様々なレクリエーション活動で認知症進行防止やADLの低下防止を図るとともに常に『利用者本位』の考え方で自立を目指した介護支援を行なっている。また、食事は常に新鮮な食材料を購入し、栄養バランスを考慮した献立で心身両面のサポートを実践している。